

# ヒマラヤ保全協会の「エコ・プログラム」

-環境保全・観光開発のための、ゴミ処理施設の建設および環境教育-

## 1. プロジェクト・サイト

ネパール、ダウラギリ県ミャグディ郡シーカ村およびガーラ村

## 2. 背景 -環境と観光資源の破壊がすすむ-



無造作にすれられたゴミ

ネパール山村の住民の生活様式は、急速に進む近代化の中で変容し、日常生活の中でこれまで生じなかった乾電池・ビニール・ペットボトル・アルミ缶・ガラスビン・ゴムなどの生活廃棄物（ゴミ）が多量に発生するようになってきた。

しかし、住民は近代的廃棄物に対する知識に乏しく、ゴミは自然に還るものと信じており、いたるところにゴミを放置しているのが目立つ。これらのゴミは土壌や河川・地下水などを汚染し、住民の健康をそこなう結果となっている。

一方で、今回の事業地は、ネパールにおいて有名なトレッキングルート（観光ルート）上に位置しており、昨年、ネパールの和平が実現してからは、非常に多数のトレッカー（ツーリスト、観光客）がおとずれるようになってきた。このような重要な観光地をゴミで汚染することは、現地住民のほとんど唯一の収入源である観光資源を破壊する原因にもなっている。現金収入がほとんどなく生活が悪化している住民にとって、また、世界最貧国の一つであり、かつ観光立国であるネパールにとって、これは非常にゆゆしい問題である。

## 3. ニーズ -環境保全と住民の健康、生活改善-

ゴミ（生活廃棄物）に含まれる有害物質やその処理方法について、正しい知識を住民に身につけてもらうとともに、ゴミ処理システムを確立して衛生状況を改善し、住民の健康をまもらなければならない。また、有害物質が土壌に蓄積することなどによる環境汚染（公害）がこれ以上すすまないようにし、地域の環境を保全しなければならない。

## 4. 解決策 -ゴミ処理システムを確立し環境を保全する-

そこで当協会は次の解決策を立案した。

- (1) ゴミ箱を作成・設置し、ゴミ集積場を建設する。
- (2) 意識向上のために、住民を対象にした環境教育を実施し、またワークショップを開催する。
- (3) 環境調和型の観光開発のための指導をおこなう。

(4) 住民自身による生活ゴミ委員会を組織する。

つまり、ゴミ収集施設を整備・建設するとともに、現地住民に対して環境教育・ワークショップを実施し、地域の環境保全と観光地美化をすすめることにより、環境汚染をふせいで住民の健康をまもり、また観光資源の破壊をくいとめて観光収入を増やし、住民の生活改善・収入向上・自立をめざす。

## 5. 目標 -環境調和型の観光開発-

平成 20 年 3 月末までに、ゴミ箱 9 個を作成、ゴミ集積場 2 基を建設するとともに、住民に対して環境教育をおこない、またワークショップを開催する。ゴミ箱は村内各所に設置し、平成 20 年 6 月末までにゴミ処理システムを確立し、地域の環境保全と観光地の美化を実現する。さらに、環境調和型の観光開発の重要性について指導し、観光地美化を通して観光客を増やし、観光収入の増加をめざす。

## 6. 事業計画（具体策）

### (1) ゴミ収集施設の整備・建設

ゴミ箱の作成・設置：平成 20 年 3 月までに、空のドラム缶でゴミ箱を 18 個作成する。ドラム缶には風雨による腐食に耐えられるように錆止め加工をした上に塗料を塗る。そして、事業地内の適切な場所にそれらを設置する。

ゴミ集積場の建設：平成 20 年 3 月までに、不燃物を集積するためのゴミ集積場(15m×5m)を 2 基建設する。有害物質などが土壤に浸透しないように周囲を石材でかためる。建設作業員として 12 人を雇用する。作業員の労賃および建設費用は申請者が支給する。

これらの所有権は事業地各村に帰属する。

### (2) 住民に対する環境教育の実施、ワークショップの開催

ゴミ処理・環境保全・観光資源に関する環境教育を、日本人専門家が現地住民に対しておこなう。また、村人の代表約 40 人に対してワークショップをおこなう。代表者選出にあたっては男女がほぼ同数になるようにし、年齢にもかたよりにしないようにする。

このような環境教育活動により、燃やせる物は燃やす、無害で燃えない物は地中に埋める、有害な物は集積場で保管するなど、住民のゴミに対する認識を向上させ、有害な廃棄物の種類の識別と分別収集を日常生活の中で実行できるようにする。また、ゴミ集積場にゴミが一定量たまったら、近隣都市のゴミ処理場まで運んで処分できるようにする。

これらにくわえて、観光地の汚染による観光資源の破壊について解説するとともに、観光地の美化が観光客を増やし、観光収入の増加につながることを指導する。

### (3) 環境調和型の観光開発のための組織運営指導、普及指導員の育成

環境保全と観光地美化の重要性について、また環境調和型の観光開発が住民の収入を向上させ地域の活性化につながることを、またその可能性がネパールでは非常に大きいことを、日本人専門家が、現地協力団体、村落委員会（村議会）、現地住民に対して指導し、事業地村内のみならず、

周辺地域にもこの考え方を広報、普及する。具体的には、現地協力団体・村落委員会・住民の三者が組織的にこの課題にとりくめるように、組織運営方法を指導する。また、環境保全・生活改善・観光開発のためのネパール人の普及指導員を育成する。

#### (4) 生活ゴミ委員会の結成と住民の自立

住民の中から、生活ゴミ委員を選出し、生活ゴミ委員会を結成・組織する。委員会は、ゴミ箱とゴミ集積場が適切に利用されるように住民を指導し、村でゴミ処理システムが着実に機能するようにする（ゴミ箱の利用や分別、その後の処理が適切にできるようにする）。

この委員会の結成により、村人自身が実施可能なゴミ処理システムの基盤ができ、観光地の継続的な美化も実現する。

### 7. 将来の展望

本計画は、(1) ゴミ処理・観光地美化、(2) 環境教育、(3) 環境調和型の観光開発、という3ステップを基本にしてすすめられ、これらにより、環境保全(公害防止)とともに、住民の衛生管理・生活改善・生計向上・自立を実現していく。

来年度以降は、地域の環境保全・観光地美化を一層すすめ、環境教育を徹底し、住民の意識をさらに向上させる。ゴミ箱作成・設置、ゴミ集積場の建設や、住民のための環境教育・ワークショップは周辺近隣他村においてもおこない、環境保全と観光地美化をより広域的に展開していく。

そして、観光資源を発掘・活用し、環境調和型の観光開発を展開していく。最終的には「エコ・ツアー」が実施できる地域にする。これにより、観光収入が増え、現地住民の生活が向上し、ひいては地域が活性化される。

このような事業が成功すれば、これがモデルとなってネパール各地に効果が波及していく。「世界最貧国」の一つであるネパールの人々の生活を改善するために、また「観光立国」ネパールにとって、これは非常に重要な意味をもつ事業である。

発行日 2007年4月1日

発行所 特定非営利活動法人ヒマラヤ保全協会

〒151-0053 東京都渋谷区代々木3-5-7 シグマロイヤルハイツ 403

TEL/FAX:03-5350-8458 E-mail: ihcjpn@ybb.ne.jp <http://www.ihc-japan.org/>